

まちがいさがし

クイズ

上下の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてね。全問正解された方のうち、抽選で10人の方に図書カードもしくはラグーナの湯無料利用券をプレゼントします。

応募締切 2月18日(火)

とうふねこ座：市川雅子 画



企画広報課 ☎66・1145

応募方法

ハガキまたはファクスに、①答え(左の絵に○をつける)と②住所・③氏名(ふりがな)・④年齢・⑤電話番号・⑥広報紙の感想(ご意見など)を書いて応募してください。なお、当選者のお名前を広報がまごおり4月号に掲載しますので、ご承ください。

送り先

〒443-8600 旭町17番1号
企画広報課「クイズ」係 FAX 66・1190

硯川と腰掛石(三谷町)

江戸に幕府ができる前だから、ずーっと昔のことだ。若い家康が戦に向かって進軍中、三谷を通りかかった時、ここで軍兵たちの疲れをとるため一休みすることにした。あたりを見まわすと、大きい榎の下にちょうど具合のいい石がある。

家康はその石に腰かけてみんなの様子を見渡し、海風を胸いっぱい吸い込んだ。

「それではさっさと感状を書こうか」

感状とは、戦で功労のあった武将に、その戦功を賞する文書だ。家康は腰に掛けている矢立を取り出し、書こうとする。

「ありゃりゃ、墨液が枯れて墨かつかんじやん」

ちよつこの時、近くに居合わせた光林寺の了山和尚が、急いで近くの小川の水をくんできて、墨をすって差し上げた。

「おお、こりゃあよき気が利くじゃんか」

家康はとても喜んだ。後に、光林寺に朱印を贈り、水を恵んでくれたこの小さな川を硯川と名づけたそう。

また、榎の下の具合のいい石は徳川家康の腰掛石とよばれるようになったそう。

硯川は現在ではほとんど姿を消しましたが、海に注ぐ手前に現れ、硯橋が架けられております。

三河三谷駅を北に上り、新幹線の高架よりちょっと手前、現在は北区と呼ばれていますが、この辺りは白山権現もとの社地で、以前は権現と呼ばれていました。そこに権現公芸堂があり、大権現の石碑があります。家康の腰掛石は三谷駅ができる頃撤去されたそうです。もしかしたら石碑の周りの石組のひとつになっているかもしれません。

【参考資料】『蒲郡風土記』著者：伊藤天章
『西の郡の民話 ほんとのんはい』著者：足立陸男

◆ 12月号の答え



12月号クイズまちがいさがし(鶴のひと声橋)の当選者

応募総数 80通 正解者 72人

当選者(敬称略・50音順)

蒲郡町 朝倉莉子
松原町 片山幸恵
西浦町 鈴木 満

形原町 市川裕己
三谷町 神谷真宣
豊岡町 中尾麻生

竹谷町 伊藤継代
三谷北通 熊谷有紀

三谷北通 尾崎弘直
竹谷町 小林泰枝

おめでとうございます。賞品は2月初旬に発送します。